川西市立総合医療センター臨床研修プログラム

川西市立総合医療センター

川西市立総合医療センター臨床研修プログラム

あいさつ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

Ⅰ　臨床研修プログラムの概要 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

1、　病院の理念 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

2、　研修プログラム特色 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

3、　臨床研修病院施設 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

4、　臨床研修を行う分野及び期間 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

5、　研修の評価 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5

6、　研修医の処遇 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5

7、　研修医の指導体制 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6

Ⅱ　臨床研修の到着目標、方略及び評価 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7

Ⅲ　研修プログラム ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15

〇指導医等一覧 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15

〇研修実施要項 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16

〇各診療科別研修プログラム ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17

【必須分野】 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17

1 内科分野 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17

2 救急科 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 25

3 外科分野 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 27

外科疾患と術前、術中、術後管理 ・・・・・・・・・・・・ 29

救急診療 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 30

4 麻酔科 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 32

5 小児科 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 34

6 産婦人科 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 36

7 地域医療 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 39

8 精神科 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 40

〇選択科目 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 42

9 内科分野 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 42

10 外科分野 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 50

11 小児科 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 56

12 産婦人科 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 57

13 緩和ケア科 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 60

14 泌尿器科 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 61

15 耳鼻咽喉科 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 63

16 地域保健 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 64

17 兵庫医科大学病院 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 65

18 大阪大学医学部附属病院（救急部門） ・・・・・・・・・・・・ 65

あいさつ

成長する力のある医師を育てます。
大切なのは成長する力です。

当院の研修は少人数です。
だからこそ当院のスタッフみんなであなたの成長を見守っていくことができます。
医師の診療する力は多くのいいこと、悪いことの経験の積み重ねで出来上がっていきます。
わたしたちスタッフも学習し続けています。
わたしたちとともに成長をしていけるように、学習する力をつけることが必要です。
研修の目標は成長する力をつけることだと考えています。

面白いもの、珍しいものなどはいくら並んでいても
通りすぎていくだけでは身につくとは思えません。
当院は高齢化する日本の縮図のような地域環境にあります。
当地域のすべての疾患を診ることができます。どんな経験でもできます。
とってきて、つかみとって自分の身につけてください。
また、当院で研修を終わられた後も、どの方面にすすまれたとしても
当院で身につけた成長する力をもって、更なる発展を遂げることができるでしょう。

プログラム責任者　　厨子　慎一郎

Ⅰ　臨床研修プログラムの概要

1、 病院の理念

・川西市立総合医療センターの理念

良質な医療の提供を通して地域社会に貢献します。

・川西市立総合医療センターの基本方針

1.患者さんの立場に立ち、誠実であたたかい医療を実践します。

2.安全で良質な医療水準を確保し、信頼と満足が得られる病院を目指します。

3.他の医療機関と連携し、地域医療の貢献に努めます。

4.健全な病院経営を目指し、安定した医療提供を実践します。

5.職員が満足できる病院づくりに努め、地域医療に貢献できる医療人を育成します。

2、 研修プログラムの特色

急性期医療を担う中核病院で地域の開業医と連携し公立病院として地域医療に力を入れています。また、他病院との連携による高度医療や保健所での地域保健、看取りを含めた在宅医療、緩和ケアを研修できます。当院の研修は少人数であるため、研修される本人が主体的に動く研修を周囲のスタッフ（医師も医師以外の検査技師や看護スタッフも）がみんなで支える構造を持ちます。

当院で研修したのちにどの分野で活躍するとしても必ず必要である医師としての学習力や生活力が、マイペースで身につけられる研修になっています。

3、 臨床研修病院施設

・基幹施設

名称：川西市立総合医療センター

所在地：兵庫県川西市火打１－４－１

開設者：川西市長　越田　謙治郎

病床数：４０５床

・協力施設

大阪大学医学部附属病院（救急部門）

兵庫医科大学病院（精神科）

さくらホームケアクリニック（地域医療）

兵庫県伊丹健康福祉事務所（地域保健）

兵庫県宝塚健康福祉事務所（地域保健）

川西市保健センター（地域保健）

医療法人協和会　第二協立病院（選択科緩和ケア）

医療法人協和会　協立温泉病院（選択科緩和ケア）

4、 臨床研修を行う分野及び期間

当院における研修プログラムは、１年目を川西市立総合医療センター（内科・救急科・外科・麻酔科）で、２年目を川西市立総合医療センター（小児科・産婦人科・選択科）とさくらホームケアクリニック（地域医療）、兵庫医科大学病院（精神科）にて研修を行うものです。

選択３，４を選択すれば８週間、大学病院での研修が可能です。さらに、選択１を選択すれば４週間、兵庫県伊丹健康福祉事務所・宝塚健康福祉事務所（保健所）及び川西市保健センターでの研修が可能です。

また、選択１、２のいずれかを選択すれば４～８週間、川西市立総合医療センターまたは協力施設にて緩和医療の研修が可能です。

２年間の研修期間中に厚生労働省が定めた必須科目を全て経験できるほか、希望者に対して、各診療科のステップアップ研修や大学病院での研修が可能です。

・研修プログラム責任者

川西市立総合医療センター　副院長　厨子　慎一郎（消化器内科）

・スケジュール

○ １年目

24週	12週	8週	4週
内科 （内科外来4週含む）	救急部門	外科 （外科外来4週含む）	麻酔科

○ ２年目

① 地域保健選択コース

4週～8週	4週～8週	4週～8週	4週	4週	16週～28週
小児科 （必修）	産婦人科 （必修）	地域医療 （必修）	精神科 （必修）	選択1	選択2

② 選択科コース

4週～8週	4週～8週	4週～8週	4週	20週～32週
小児科 （必修）	産婦人科 （必修）	地域医療 （必修）	精神科 （必修）	選択2

③ 兵庫医科大学選択コース

4週～8週	4週～8週	4週～8週	4週	8週	12週～24週
小児科 （必修）	産婦人科 （必修）	地域医療 （必修）	精神科 （必修）	選択3 兵庫医科大学 ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ	選択2

④ 大阪大学選択コース

4週～8週	4週～8週	4週～8週	4週	8週	12週～24週
小児科 （必修）	産婦人科 （必修）	地域医療 （必修）	精神科 （必修）	選択4 大阪大学 救急部門	選択2

【１年目】

○ 必須科目

内科　　・・・・　２４週以上（内科外来での研修含む）

救急科　　・・・・　１２週以上

外科　　・・・・　８週以上（外科外来での研修含む）

麻酔科　　・・・・　４週以上

※一般外来での研修は並行研修（週１回を４週間分）での研修になる。

※一般外来での研修は一般内科、一般外科、地域医療等が想定されており、専門外来（糖尿病内科・循環器内科・乳腺外科等）での研修は研修期間に含まれない。

※外来での研修が午前中のみの場合、研修期間は0.5日とする。

【２年目】

○ 必須科目

小児科・産婦人科　　・・・・・・・・・・・・・・・・　各４週間以上

地域医療（さくらホームケアクリニック）　・・・・　４週以上

精神科（兵庫医科大学病院）　　・・・・・・・・・・　４週以上

○ 選択科目

選択１：緩和ケア科もしくは兵庫県伊丹健康福祉事務所または宝塚健康福祉事務所/川西市保健センターにて地域保健・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４週

選択２：内科・外科・小児科・産婦人科・泌尿器科・耳鼻いんこう科・緩和ケア科・・１２～３２週

選択３：兵庫医科大学病院にて兵庫医科大学病院臨床研修プログラムにおける基本研修科、必修科（地域保健・医療除く）及び選択科から希望診療科を選択（複数選択可）　　・・・・　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・８週

選択４：大阪大学医学部附属病院高度救急救命センターにて救急部門・・・・・８週

※備考

・選択３・４はどちらか１つしか選択できない。

・緩和ケア科は医療法人協和会第二協立病院または医療法人協和会協立温泉病院での研修

・それぞれの研修時期については相談の上、決定する。

・外部の医療機関での研修については研修時期が限定される場合がある。

・募集定員

２名

・募集形式

医師臨床研修マッチング協会が行う全国マッチングに参加して募集を行います。定員に満たない場合には、その後随時募集します。

・選考方法

面接を行ったうえで、全国マッチングに参加しての選考になります。

・研修期間

２年間（令和４年４月(9月)１日～令和６年３月３１日）

５、評価

卒後臨床研修システム（EPOC)を用い、評価を行います。

また、半年に１回、研修医にフィードバックを行います。

２年次終了時の最終的な達成状況については臨床研修の目標の達成度評価表を用いて評価（総括的評価）をします。

臨床研修管理委員会は研修期間終了に際し、プログラム責任者の報告に基づき、研修の修了認定の可否について評価を行い、管理者に報告します。管理者は臨床研修管理委員会の報告を受けて研修修了証の交付をします。

６、研修医の処遇

身分	常勤医（研修医）
給与	・１年目 月額４０７,２００円 ・２年目 月額４５４,９００円 ※ ただし、時間外・宿日直勤務等の実態により異なります
勤務時間	・午前９時から午後５時　休憩６０分
休暇	年間１１１日間（週休２日） 有休休暇 １年目　１１日 勤続１年：１２日間、勤続２年：１３日間
時間外勤務及び宿日直	宿直、日直ともに原則月４回まで 指導医とペアで行う 宿日直手当については勤務実態に合わせて支給されます
宿舎	病院借上げワンルームマンション　家賃20,000円/月（自己負担）
研修医用個室	あり
社会保険	健康保険、厚生年金保険、雇用保険、労災保険
健康管理	定期健康診断等は常勤職員の規定を準用します
医師賠償責任保険	病院の契約により加入しています
研修	規定の学会への出張研修が１年度中に１回認められます（国内に限る） その場合、参加費のほか旅費、宿泊費を支給します

7、研修医の指導体制

研修委員会責任者

研修管理委員長	土居　貞幸	（病院長・外科）
プログラム責任者	厨子　慎一郎	（副院長・消化器内科）
指導責任者	厨子　慎一郎	（副院長・消化器内科）

Ⅱ　臨床研修の到達目標、方略及び評価

臨床研修の基本理念（医師法第一六条の二第一項に規定する臨床研修に関する省令）
臨床研修は、医師が、医師としての人格をかん養し、将来専門とする分野にかかわらず、医学及び医療の果たすべき社会的役割を認識しつつ、一般的な診療において頻繁に関わる負傷又は疾病に適切に対応できるよう、基本的な診療能力を身に付けることのできるものでなければならない。

ー到達目標ー

1、到達目標

医師は、病める人の尊厳を守り、医療の提供と公衆衛生の向上に寄与する職業の重大性を深く認識し、医師としての基本的価値観（プロフェッショナリズム）及び医師としての使命の遂行に必要な資質・能力を身に付けなくてはならない。医師としての基盤形成の段階にある研修医は、基本的価値観を自らのものとし、基本的診療業務ができるレベルの資質・能力を修得する。

A.医師としての基本的価値観（プロフェッショナリズム）

1.社会的使命と公衆衛生への寄与

社会的使命を自覚し、説明責任を果たしつつ、限りある資源や社会の変遷に配慮した公正な医療の提供及び公衆衛生の向上に努める。

2.利他的な態度

患者の苦痛や不安の軽減と福利の向上を最優先し、患者の価値観や自己決定権を尊重する。

3.人間性の尊重

患者や家族の多様な価値観、感情、知識に配慮し、尊敬の念と思いやりの心を持って接する。

4.自らを高める姿勢

自らの言動及び医療の内容を省察し、常に資質・能力の向上に努める。

B.資質・能力

1.医学・医療における倫理性

診療、研究、教育に関する倫理的な問題を認識し、適切に行動する。

①人間の尊厳を守り、生命の不可侵性を尊重する。

②患者のプライバシーに配慮し、守秘義務を果たす。

③倫理的ジレンマを認識し、相互尊重に基づき対応する。

④利益相反を認識し、管理方針に準拠して対応する。

⑤診療、研究、教育の透明性を確保し、不正行為の防止に努める。

2.医学知識と問題対応能力

最新の医学及び医療に関する知識を獲得し、自らが直面する診療上の問題について、科学的根拠に経験を加味して解決を図る。

①頻度の高い症候について、適切な臨床推論のプロセスを経て、鑑別診断と初期対応を行う。

②患者情報を収集し、最新の医学的知見に基づいて、患者の意向や生活の質に配慮した臨床決断を行う。

③保健・医療・福祉の各側面に配慮した診療計画を立案し、実行する。

3.診療技能と患者ケア

臨床技能を磨き、患者の苦痛や不安、考え・意向に配慮した診療を行う。

①患者の健康状態に関する情報を、心理・社会的側面を含めて、効果的かつ安全に収集する。

②患者の状態に合わせた、最適な治療を安全に実施する。

③診療内容とその根拠に関する医療記録や文書を、適切かつ遅滞なく作成する。

4.コミュニケーション能力

患者の心理・社会的背景を踏まえて、患者や家族と良好な関係性を築く。

①適切な言葉遣い、礼儀正しい態度、身だしなみで患者や家族に接する。

②患者や家族にとって必要な情報を整理し、分かりやすい言葉で説明して、患者の主体的な意思決定を支援する。

③患者や家族のニーズを身体・心理・社会的側面から把握する。

5.チーム医療の実践

医療従事者をはじめ、患者や家族に関わる全ての人々の役割を理解し、連携を図る。

①医療を提供する組織やチームの目的、チームの各構成員の役割を理解する。

②チームの各構成員と情報を共有し、連携を図る。

6.医療の質と安全の管理

患者にとって良質かつ安全な医療を提供し、医療従事者の安全性にも配慮する。

①医療の質と患者安全の重要性を理解し、それらの評価・改善に努める。

②日常業務の一環として、報告・連絡・相談を実践する。

③医療事故等の予防と事後の対応を行う。

④医療従事者の健康管理（予防接種や針刺し事故への対応を含む。）を理解し、自らの健康管理に努める。

7.社会における医療の実践

医療の持つ社会的側面の重要性を踏まえ、各種医療制度・システムを理解し、地域社会と国際社会に貢献する。

①保健医療に関する法規・制度の目的と仕組みを理解する。

②医療費の患者負担に配慮しつつ、健康保険、公費負担医療を適切に活用する。

③地域の健康問題やニーズを把握し、必要な対策を提案する。

④予防医療・保健・健康増進に努める。

⑤地域包括ケアシステムを理解し、その推進に貢献する。

⑥災害や感染症パンデミックなどの非日常的な医療需要に備える。

8.科学的探究

医学及び医療における科学的アプローチを理解し、学術活動を通じて、医学及び医療の発展に寄与する。

①医療上の疑問点を研究課題に変換する。

②科学的研究方法を理解し、活用する。

③臨床研究や治験の意義を理解し、協力する。

9.生涯にわたって共に学ぶ姿勢

医療の質の向上のために省察し、他の医師・医療者と共に研鑽しながら、後進の育成にも携わり、生涯にわたって自律的に学び続ける。

①急速に変化・発展する医学知識・技術の吸収に努める。

②同僚・後輩・医師以外の医療職と互いに教え、学びあう。

③国内外の政策や医学及び医療の最新動向（薬剤耐性菌やゲノム医療等を含む。）を把握する。

C.基本的診療業務

コンサルテーションや医療連携が可能な状況下で、以下の各領域において、単独で診療ができる。

1.一般外来診療

頻度の高い症候・病態について、適切な臨床推論プロセスを経て診断・治療を行い、主な慢性疾患については継続診療ができる。

2.病棟診療

急性期の患者を含む入院患者について、入院診療計画を作成し、患者の一般的・全身的な診療とケアを行い、地域連携に配慮した退院調整ができる。

3.初期救急対応

緊急性の高い病態を有する患者の状態や緊急度を速やかに把握・診断し、必要時には応急処置や院内外の専門部門と連携ができる。

4.地域医療

地域医療の特性及び地域包括ケアの概念と枠組みを理解し、医療・介護・保健・福祉に関わる種々の施設や組織と連携できる。

２、実務研修の方略

研修期間

研修期間は原則として２年間以上とする。

協力型臨床研修病院又は臨床研修協力施設と共同して臨床研修を行う場合にあっては、原則として、１年以上は基幹型臨床研修病院で研修を行う。なお、地域医療等における研修期間を、12週を上限として、基幹型臨床研修病院で研修を行ったものとみなすことができる。

臨床研修を行う分野・診療科

①内科、外科、小児科、産婦人科、精神科、救急、地域医療を必修分野とする。また、一般外来での研修を含めること。

②原則として、内科24週以上、救急12週以上、外科、小児科、産婦人科、精神科及び地域医療それぞれ４週以上の研修を行う。なお、外科、小児科、産婦人科、精神科及び地域医療については、８週以上の研修を行うことが望ましい。

③原則として、各分野は一定のまとまった期間に研修（ブロック研修）を行うことを基本とする。ただし、救急については、４週以上のまとまった期間に研修を行った上で、週１回の研修を通年で実施するなど特定の期間一定の頻度により行う研修（並行研修）を行うことも可能である。なお、特定の必須分野を研修中に、救急の並行研修を行う場合、その日数は当該特定の必須分野の研修期間に含めないこととする。

④内科については、入院患者の一般的・全身的な診療とケア、及び一般診療で頻繁に関わる症候や内科的疾患に対応するために、幅広い内科的疾患に対する診療を行う病棟研修を含むこと。

⑤外科については、一般診療において頻繁に関わる外科的疾患への対応、基本的な外科手技の習得、周術期の全身管理などに対応するために、幅広い外科的疾患に対する診療を行う病棟研修を含むこと。

⑥小児科については、小児の心理・社会的側面に配慮しつつ、新生児期から思春期までの各発達段階に応じた総合的な診療を行うために、幅広い小児科疾患に対する診療を行う病棟研修を含むこと。

⑦産婦人科については、妊娠・出産、産科疾患や婦人科疾患、思春期や更年期における医学的対応などを含む一般診療において頻繁に遭遇する女性の健康問題への対応等を習得するために、幅広い産婦人科領域に対する診療を行う病棟研修を含むこと。

⑧精神科については、精神保健・医療を必要とする患者と家族に対して、全人的に対応するために、精神科専門外来又は精神科リエゾンチームでの研修を含むこと。なお、急性期入院患者の診療を行うことが望ましい。

⑨救急については、頻度の高い症候と疾患、緊急性の高い病態に対する初期救急対応の研修を含むこと。また、麻酔科における研修期間を、４週を上限として、救急の研修期間とすることができる。麻酔科を研修する場合には、気管挿管を含む気道管理及び呼吸管理、急性期の輸液・輸血療法、並びに血行動態管理法についての研修を含むこと。

⑩一般外来での研修については、ブロック研修又は並行研修により、４週以上の研修を行うこと。なお、受入状況に配慮しつつ、８週以上の研修を行うことが望ましい。また、症候・病態について適切な臨床推論プロセスを経て解決に導き、頻度の高い慢性疾患の継続診療を行うために、特定の症候や疾病に偏ることなく、原則として初診患者の診療及び慢性疾患患者の継続診療を含む研修を行うこと。例えば、総合診療、一般内科、一般外科、小児科、地域医療等における研修が想定され、特定の症候や疾病のみを診察する専門外来や、慢性疾患患者の継続診療を行わない救急外来、予防接種や健診・検診などの特定の診療のみを目的とした外来は含まれない。一般外来研修においては、他の必修分野等との同時研修を行うことも可能である。

⑪地域医療については、原則として、２年次に行うこと。また、へき地・離島の医療機関、許可病床数が200床未満の病院又は診療所を適宜選択して研修を行うこと。さらに研修内容としては以下に留意すること。

１）一般外来での研修と在宅医療の研修を含めること。ただし、地域医療以外で在宅医療の研修を行う場合に限り、必ずしも在宅医療の研修を行う必要はない。

２）病棟研修を行う場合は慢性期・回復期病棟での研修を含めること。

３）医療・介護・保健・福祉に係る種々の施設や組織との連携を含む、地域包括ケアの実際について学ぶ機会を十分に含めること。

⑫選択研修として、保健・医療行政の研修を行う場合、研修施設としては、保健所、介護老人保健施設、社会福祉施設、赤十字社血液センター、検診・健診の実施施設、国際機関、行政機関、矯正施設、産業保健等が考えられる。

⑬全研修期間を通じて、感染対策（院内感染や性感染症等）、予防医療（予防接種等）、虐待への対応、社会復帰支援、緩和ケア、アドバンス・ケア・プラニング（ACP)、臨床病理検討会（CPC)等、基本的な診療において必要な分野・領域等に関する研修を含むこと。また、診療領域・職種横断的なチーム（感染制御、緩和ケア、栄養サポート、認知症ケア、退院支援等）の活動に参加することや、児童・思春期精神科領域（発達障害等）、薬剤耐性菌、ゲノム医療等、社会的要請の強い分野・領域等に関する研修を含むことが望ましい。

経験すべき症候

外来又は病棟において、下記の症候を呈する患者について、病歴、身体所見、簡単な検査所見に基づく臨床推論と、病態を考慮した初期対応を行う。

ショック、体重減少・るい痩、発疹、黄疸、発熱、もの忘れ、頭痛、めまい、意識障害・失神、けいれん発作、視力障害、胸痛、心停止、呼吸困難、吐血・喀血、下血・血便、嘔気・嘔吐、腹痛、便通異常（下痢・便秘）、熱傷・外傷、腰・背部痛、関節痛、運動麻痺・筋力低下、排尿障害（尿失禁・排尿困難）、興奮・せん妄、抑うつ、成長・発達の障害、妊娠・出産、終末期の症候（29症候）

経験すべき疾病・病態

外来又は病棟において、下記の疾病・病態を有する患者の診療にあたる。

脳血管障害、認知症、急性冠症候群、心不全、大動脈瘤、高血圧、肺癌、肺炎、急性上気道炎、気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患（COPD)、急性胃腸炎、胃癌、消化性潰瘍、肺炎・肝硬変、胆石症、大腸癌、腎盂腎炎、尿路結石、腎不全、高エネルギー外傷・骨折、糖尿病、脂質異常症、うつ病、統合失調症、依存症（ニコチン・アルコール・薬物・病的賭博）（26疾病・病態）

※経験すべき症候及び経験すべき疾病・病態の研修を行ったことの確認は、日常業務において作成する病歴要約に基づくこととし、病歴、身体所見、検査所見、アセスメント、プラン（診断、治療、教育）、考察等を含むこと。

経験すべき分野・領域

研修全体を通して必ず経験すること。

・院内感染や性感染症を含む感染対策
・予防接種等を含む予防医療
・虐待への対応（講義形式）
・社会復帰支援
・緩和ケア
・アドバンス・ケア・プラニング（ACP)
・臨床病理検討会（CPC)　　等

・感染制御チーム、緩和ケアチーム、栄養サポートチーム、認知症ケアチーム、退院支援チーム等、診療領域・職種横断的なチームの活動への参加
・発達障害等の児童・思春期精神科領域、薬剤耐性菌、ゲノム医療　　等

3、到達目標の達成度評価

研修医が到達目標を達成しているかどうかは、各分野・診療科のローテーション終了時に、医師及び医師以外の医療職が別添の研修医評価票Ⅰ、Ⅱ、Ⅲを用いて評価し、評価票は研修管理委員会で保管する。

医師以外の医療職には、看護師を含むことが望ましい。

上記評価の結果を踏まえて、少なくとも年２回、プログラム責任者・研修管理委員会委員が、研修医に対して形式的評価（フィードバック）を行う。

２年間の研修終了時に、研修管理委員会において、研修医評価票Ⅰ、Ⅱ、Ⅲを勘案して作成される「臨床研修の目標の達成度判定票」を用いて、到着目標の達成状況について評価する。

研修医評価票

1.「A.医師としての基本的価値観（プロフェッショナリズム）」に関する評価

A-1.社会的使命と公衆衛生への寄与
A-2.利他的な態度
A-3.人間性の尊重
A-4.自らを高める姿勢

2.「B.資質・能力」に関する評価

B-1.医学・医療における倫理性
B-2.医学知識と問題対応能力
B-3.診療技能と患者ケア
B-4.コミュニケーション能力
B-5.チーム医療の実践
B-6.医療の質と安全の管理
B-7.社会における医療の実践
B-8.科学的探究
B-9.生涯にわたって共に学ぶ姿勢

3.「C.基本的診療業務」に関する評価

C-1.一般外来診療
C-2.病棟診療
C-3.初期救急対応
C-4.地域医療

Ⅲ　研修プログラム

【指導医等一覧】

○基本的姿勢と態度・具体的目標	土居貞幸院長
剖検	伊藤敬部長
1　一般外来	各診療科指導医
2　内科	厨子慎一郎副院長
3　救急科	大家宗彦主任部長
4　外科	杉本圭司主任部長
救急診療	杉本圭司主任部長
外科疾患と術前、術中、術後管理	杉本圭司主任部長
5　麻酔科	坂野英俊部長
6　小児科	岡本恭明部長
7　産婦人科	藤井光久部長
8　地域医療（さくらホームケアクリニック）	久保雅弘院長
9　精神科（兵庫医科大学病院）	担当指導医

選択１　地域保健（伊丹健康福祉事務所または宝塚健康福祉事務所）	保健所長
地域保健（川西市保健センター）	保健センター所長
選択２　内科ステップアップ	内科担当指導医
選択２　外科ステップアップ	外科担当指導医
選択２　外科疾患と術前、術中、術後管理ｽﾃｯﾌﾟｱｯﾌﾟ	外科担当指導医
選択２　救急診療ステップアップ	大家宗彦主任部長
選択２　小児科ステップアップ	岡本恭明部長
選択２　産婦人科ステップアップ	藤井光久部長
選択１.２　緩和医療	担当指導医
選択３　兵庫医科大学病院	各診療科指導医
選択４　救急部門（大阪大学医学部附属病院）	担当指導医

※地域医療・選択１・３・４については、各病院・施設の指導医の指示のもと、研修を行うものとする。

【研修実施要項】

１、研修医は、２年目の研修科目について、４つのコースから１つを選択する。選択１から選択４に関しては、研修科目等をそれぞれ選択し、川西市立総合医療センター臨床研修プログラム委員会（以下「プログラム委員会」という。）に提出する。

２、プログラム委員会は、研修医の希望を元に研修計画の具体的日程等を作成する。

３、研修医は、研修診療科目終了ごとにオンライン研修評価システム（以下「EPOC」という。）の到達目標自己評価票に必要事項を入力のうえ、研修終了後１週間以内に指導医等に報告する。

４、分野ごとの研修修了の際に、指導医を始めとする医師及び医師以外の医療職が、研修医評価票（様式18から20）を用いて、到達目標の達成度を評価し、研修管理委員会で保管する。

５、研修医及び指導医は、「臨床研修の目標、方略及び評価」の「Ｉ　到達目標」に記載された個々の項目について、研修医が実際にどの程度履修したか、インターネットの評価システムを用い、随時記録を行う。

６、研修期間の終了に際し、プログラム責任者は、研修管理委員会に対して研修医ごとの臨床研修の目標の達成状況を臨床研修の目標の達成度判定表（様式21）を用いて報告し、その報告に基づき、研修管理委員会が研修の修了認定の可否についての評価を行う。

７、指導医等は、EPOCの到達目標自己評価票を参考にEPOCの研修医評価表を入力し、川西市立総合医療センター臨床研修プログラム委員長（以下「プログラム委員長」）に報告する。問題等のあるときには、その旨を併せてプログラム委員長に報告する。

８、プログラム委員会において、指導医等からの研修医評価票を元に研修医の研修進行状況を検討後、研修医評価を川西市立総合医療センター臨床研修委員会に報告する。

【各診療科別プログラム】

◆内科　必須科目　１年目２４週

〇目標

　プライマリケアを的確に実践するために、内科診療において遭遇することの多い疾患を中心に研修する。診察、検査を施行し、鑑別診断をし、治療方針を決定するのに必要な基本的事項を習得する。同時にさらに高次医療が必要かどうかを、外来あるいは入院の上、判断できる知識、技術を身に付ける。

　また、患者のQOLに配慮しつつ、現在の医療レベルに見合う最良の治療を実践し、地域医療との連携を含めた患者指導を行う能力を身につける。

〇指導医と研修施設

指導医　　厨子　慎一郎　他

研修施設　　川西市立総合医療センター

【◆消化器／肝臓】

〇行動目標

以下の検査を必要に応じて自らし、結果を解釈できる

- 上部消化管内視鏡検査
- 腹部超音波検査

以下の検査を適切に選択・指示し、結果を解釈できる

- 検便
- 血算
- 血液生化学的検査
- 血液免疫学的検査
- 出血凝固検査
- 肝機能検査
- 腫瘍マーカー
- 細菌学検査
- 薬剤感受性検査
- 腹部単純X線検査
- ウイルス学的検査
- 下部消化管内視鏡検査
- 上部消化管内視鏡検査
- 内視鏡下生検
- 細胞診・病理組織検査

以下の検査を適切に選択・指示し、専門家の意見に基づき結果を解釈できる

- 超音波ガイド下穿刺・生検

- 下部消化管造影検査
- 腹部CT検査
- 腹部MRI検査
- 逆行性膵胆管造影検査
- 経皮経胆管的胆道造影検査

以下の治療法の適応を決定し、実施できる

- 一般薬の適応と使用
- 消化器用薬剤の使用
- 抗潰瘍薬剤の使用
- 抗生物質の適応と使用
- ステロイド薬の適応と使用
- 輸液の適応と使用
- 輸液・血液製剤の適応と使用
- 中心静脈栄養法
- 呼吸管理
- 循環管理
- 食事療法
- 療養指導

以下の治療法の必要性を判断し、適応を決定できる

- 外科的治療法
- 放射線的治療法
- 精神的、心身医学的治療
- 消化管出血に対する止血術
- 食道静脈瘤に対する治療
- ポリープ、早期癌に対する治療
- イレウス管挿入と管理
- 経内視鏡的胆道ドレナージ術（ステント留置術を含む）
- 経皮経肝的胆道ドレナージ術（ステント留置術を含む）
- 抗腫瘍化学療法
- 経腸栄養法
- 在宅療法
- 経皮的エタノール注入療法
- リザーバ留置術
- 血管造影、塞栓術
- インターフェロン治療
- GI療法
- 血漿交換

以下の手技の適応を決定し、実施できる

- 注射法
- 採血法
- 胃管の挿入と管理
- ドレーン・チューブ類の管理
- 中心静脈穿刺
- 導尿
- 胸腹水の穿刺、採取

以下の救急処置法を緊急を要する疾患または外傷を持つ患者さんに対して適切に処置し、必要に応じて専門家に診察を依頼することができる

- 急性腹症
- 吐血・下血

【◆循環器】

〇行動目標

循環器疾患の基本的な理解と検査・治療を身につける。

以下の検査を必要に応じて自らし、結果を解釈できる

- 血算
- トロポニンT迅速測定
- 心電図

以下の検査を適切に選択・指示し、結果を解釈できる

- 血液生化学的検査
- 血液免疫学的検査
- 肝機能検査
- 腎機能検査
- 肺機能検査
- 血液凝固検査
- 心臓超音波検査
- 運動負荷心電図
- 胸部単純X線検査

以下の検査を適切に選択・指示し、専門家の意見に基づき結果を解釈できる

- MRI検査
- CT検査

以下の治療法を適切に決定し、実施できる

- 一般薬の適応と使用
- 強心薬の使用
- 利尿剤の使用
- 抗不整脈薬の使用
- 降圧剤の使用
- 血管拡張薬の使用
- 冠血管拡張薬の使用
- 輸液の適応と使用
- 呼吸管理
- 循環管理（不整脈含む）
- 血栓溶解療法
- 食事療法
- 療養指導

以下の治療法の必要性を判断し、適応を決定できる

- 体外式ペーシング
- ペースメーカ植込術
- 電気的除細動
- 医学的リハビリテーション

以下の手技の適応を決定し、実施できる

- 末梢動脈穿刺
- 中心静脈カテーテル挿入
- 導尿

【◆糖尿病・代謝・内分泌】

〇行動目標

以下の検査を必要に応じて自らし、結果を解釈できる

- ７５ｇ糖負荷試験
- 血糖日内変動
- 内分泌学的検査及び負荷テスト（グルカゴン、インスリン負荷テスト等）
- 眼底検査

以下の検査を適切に選択・指示し、結果を解釈できる

- 腹部CT検査
- 腹部超音波検査
- 頸動脈超音波検査
- ABI（anckle brachial index）
- 甲状腺超音波検査

以下の検査を適切に選択・指示し、専門家の意見に基づき結果を解釈できる

- 甲状腺エコー検査

以下のを治療法の適応を決定し、実施できる

- 食事療法の適応と指導
- 運動療法の適応と指導
- 経口糖尿病薬の適応と使用
- インスリン療法の適応と使用
- 甲状腺の薬物療法
- 糖尿病患者の術前・術後管理
- 低血糖、シックデイの対応

【◆呼吸器】

〇行動目標

以下の検査を必要に応じて自らし、結果を解釈できる

- 喀痰検査
- 血液ガス分析
- 呼吸機能検査
- 胸腔穿刺・胸水採取
- ツベルクリン反応

以下の検査を適切に選択・指示し、結果を解釈できる

- 胸部単純X線検査
- 胸部CT検査
- 細菌学的検査
- 薬剤感受性検査
- 腫瘍マーカー
- 細胞診・病理組織検査

以下の検査を適切に選択・指示し、専門家の意見に基づき結果を解釈できる

- 胸部MRI検査

以下の治療法の適応を決定し、実施できる

- 一般薬の適応と使用
- 抗生物質の適応と使用
- 気管支拡張薬の適応と使用
- ステロイド薬の適応と使用
- 輸液の適応と使用
- 酸素療法・在宅酸素療法
- 慢性閉塞性肺疾患の在宅治療の指導
- 食事療法

・ 療養指導

以下の治療法の必要性を判断し、適応を決定できる

・ 外科的療法
・ 放射線療法
・ 理学療法
・ 抗腫瘍化学療法の適応と使用
・ 中心静脈栄養法
・ 呼吸管理
・ 循環管理

以下の手技の適応を決定し、実施できる

・ 胸腔ドレナージ
・ 胸膜癒着術
・ 中心静脈穿刺

以下の手技の必要性を判断し、適応を決定できる

・ 気管切開
・ 胸膜癒着術

【◆神経内科】

〇行動目標

以下の検査を必要に応じて自らし、結果を解釈できる

・ 髄液検査

以下の検査を適切に選択・指示し、結果を解釈できる

・ 脳CT

以下の検査を適切に選択・指示し、専門家の意見に基づき結果を解釈できる

・ 脳波
・ 神経伝導速度
・ 筋電図
・ 脳MRI

以下の治療法の適応を決定し、実施できる

・ 抗生剤の適応と指導

以下の治療法の必要性を判断し、適応を決定できる

- ステロイド剤の適応と使用
- ガンマグロブリンの適応と使用

以下の手技の適応を決定し、実施できる

- 腰椎穿刺

【◆腎臓】

〇行動目標

以下の検査を必要に応じて自らし、結果を解釈できる

- 検尿、尿沈渣

以下の検査を適切に選択・指示し、結果を解釈できる

- 血液科学的検査
- 血液免疫学的検査
- 腎機能検査

以下の検査を適切に選択・指示し、専門家の意見に基づき結果を解釈できる

- 腎生検

以下の治療法の適応を決定し、実施できる

- 食事療法
- 薬物療法

以下の治療法の必要性を判断し、適応を決定できる

- 透析療法
- 腎移植

【◆血液／膠原病】

〇行動目標

以下の検査を必要に応じて自らし、結果を解釈できる

- 出血時間測定
- 血液型判定・交差試験

以下の検査を適切に選択・指示し、結果を解釈できる

- 染色体検査
- 血液免疫学的検査

以下の治療法の適応を決定し、実施できる

- 輸血血液製剤の使用

以下の治療法の必要性を判断し、適応を決定できる

- 化学療法
- GCSF療法
- 自己末梢と幹細胞移植

以下の手技の適応を決定し、実施できる

- 骨髄穿刺
- 骨髄生検
- リンパ節生検
- TPN管理中心静脈ルート検査

◆救急科　必須科目　１年目１２週

〇目標

救急患者さんの特殊性を理解し、基本的な診療ができる知識と技術を身につける。

〇指導医と研修施設

指導医　　大家　宗彦　他

研修施設　　川西市立総合医療センター

〇行動目標

以下の検査を必要に応じて自らし、結果を解釈できる

- 血液検査
- 検尿、検便

以下の検査を適切に選択・指示し、結果を解釈できる

- レントゲン検査
- CT検査
- 腹部エコー
- 心エコー

以下の手技の適応を決定し、実施できる

- 下顎保持
- エアウェイ挿入
- 気管挿管
- 気道吸引
- アンビューバックの使用
- 人工呼吸器使用
- 胸骨叩打
- 胸骨圧迫マッサージ
- 直流鋤細動
- 圧迫止血法
- 止血帯の使用
- 経鼻胃管挿入
- 胃洗浄
- 導尿法
- 尿カテーテル留置
- 穿刺
- 浣腸
- ドレーン・チューブ類の管理
- 局所麻酔法
- 軽度の外傷の処理
- 簡単な切開・排膿

- 皮膚縫合法
- ガーゼ・包帯交換
- 包帯法
- 滅菌消毒法
- 応急副子固定（骨折について緊急性の有無の判断）
- 鼻出血の止血処置
- 簡単な結膜・角膜異物除去
- 耳異物除去
- 鼻異物除去
- 熱傷の局所療法

以下の手技の必要性を判断し、適応を決定できる

- 胸腔ドレナージ挿入
- 鎖骨下静脈穿刺
- CVPカテーテル挿入
- 腰椎穿刺
- 胸腔穿刺
- 腹腔穿刺

◆外科　必須科目　１年目８週

〇目標

手術の適応の決定と手術の基本的手技を取得する

〇指導医と研修施設

指導医　　杉本　圭司　他

研修施設　　川西市立総合医療センター

〇行動目標

以下の検査を適切に選択・指示し、結果を解釈できる

- 血液生化学的検査
- 血液免疫学的検査
- 肝機能検査
- 腎機能検査
- 肺機能検査
- 内分泌研鑽
- 細菌学検査
- 薬剤感受性検査
- 単純X線検査
- 造影Ｘ線検査
- CT検査
- MRI検査
- RI検査
- 超音波検査
- 細胞診・病理組織検査
- 内視鏡検査

以下の治療法の適応を決定し、実施できる

- 一般薬の適応と使用
- 抗生物質の適応と使用
- 鎮痛剤の適応と使用
- ステロイド薬の適応と使用
- 輸液の適応と使用
- 輸血・血液製剤の適応と使用
- 中心静脈栄養法
- 経腸栄養法
- 呼吸管理
- 循環管理
- 食事療法
- 療養指導

以下の治療法の必要性を判断し、適応を決定できる

- 放射線的治療
- 抗腫瘍化学療法
- 医学的リハビリテーション

以下の手技の適応を決定し、実施できる

- 無菌操作
- 皮膚縫合
- 糸結び
- 糸切り
- 止血
- 抜糸
- 胸腔・腹腔穿刺、ドレナージ

以下の手技の必要性を判断し、適応を決定できる

- 中心静脈栄養カテーテル挿入
- カットダウン

以下の手術の適応を判断し、術者として実施できる

- 外来小手術
- 単開腹・閉腹

以下の手術の適応を判断し、手術に参加できる

- 虫垂切除術
- 鼠経ヘルニア手術
- 痔核手術
- 甲状腺手術
- 乳腺手術
- 肺切除術
- 食道切除術
- 胃切除術
- 大腸切除術
- 直腸切除術
- 人工肛門造設術
- 胃腸吻合術
- 胆嚢摘出術（開腹）
- 胆嚢摘出術（腹腔鏡）
- 肝切除術
- 膵頭十二指腸切除術

◆外科疾患と術前、術中、術後管理

〇目標

外科疾患と麻酔の基本事項を取得する。

術前訪問と適応判断また、麻酔中のバイタルサインの把握、術後訪問などについて研修する

〇指導医と研修施設

指導医　　杉本　圭司　他

研修施設　　川西市立総合医療センター

〇行動目標

以下の検査を必要に応じて自らし、結果を解釈できる

- 血算
- 電解質検査
- 動脈血ガス分析
- 血液型判定
- 術中呼吸・循環動態の把握

以下の検査を適切に選択・指示し、結果を解釈し補正することができる

- 各種術前検査

以下の治療法の適応を決定し、実施できる

- 麻酔法の選択
- 周術期輸液の適応と使用

以下の麻酔法の適応を決定することができる

- 全身麻酔
- 脊椎麻酔
- 硬膜外麻酔
- 静脈麻酔

◆救急診療

〇目標

救急患者さんの特殊性を理解し、基本的な診療ができる知識と技術を見つける

〇指導医と研修施設

指導医　　大家　宗彦　他

研修施設　　川西市立総合医療センター

〇行動目標

以下の検査を必要に応じて自らし、結果を解釈できる

- 血液検査
- 検尿・検便

以下の検査を適切に選択・指示し、結果を解釈できる

- レントゲン検査
- CT検査
- 腹部エコー
- 心エコー

以下の手技の適応を決定し、実施できる

- 下顎保持
- エアウェイ挿入
- 気管挿管
- 気道吸引
- アンビューバックの使用
- 人工呼吸器使用
- 胸骨叩打
- 胸骨圧迫マッサージ
- 直流鋤細動
- 圧迫止血法
- 止血帯の使用
- 経鼻胃管挿入
- 胃洗浄
- 導尿法
- 尿カテーテル留置
- 穿刺
- 浣腸
- ドレーン・チューブ類の管理
- 局所麻酔法
- 軽度の外傷の処理
- 簡単な切開・排膿

- 皮膚縫合法
- ガーゼ・包帯交換
- 包帯法
- 滅菌消毒法
- 応急副子固定（骨折について緊急性の有無の判断）
- 鼻出血の止血処置
- 簡単な結膜・角膜異物除去
- 耳異物除去
- 鼻異物除去
- 熱傷の局所療法

以下の手技の必要性を判断し、適応を決定できる

- 胸腔ドレナージ挿入
- 鎖骨下静脈穿刺
- CVPカテーテル挿入
- 腰椎穿刺
- 胸腔穿刺
- 腹腔穿刺

◆麻酔科　必須科目　１年目４週

〇目標

手術の導入から覚醒までを通じて、麻酔および関連する基本手技や薬物の使い方を身につける

〇指導医と研修施設

指導医　　坂野　英俊

研修施設　　川西市立総合医療センター

〇行動目標

以下の検査結果を解釈し、対処する

- 血液検査（動脈血、静脈血）
- 尿量、検尿
- 術中モニター（心電図、Sp02、カプノメーター、気道内圧、体温、BIS）

以下の治療法を適切に判断し、実施する

- 鎮静薬の使用
- 麻薬の使用
- 鎮痛薬の使用
- 筋弛緩薬の使用
- 昇圧薬の使用
- 降圧薬の使用
- 抗不整脈薬の使用
- ステロイド薬の使用
- 輸液管理
- 血圧管理
- 循環管理
- 呼吸管理
- ショック状態の対処

以下の麻酔に必要な基本手技を実施する

- 下顎保持
- マスク換気
- 気管内挿管
- 口腔内吸引
- 気管内吸引
- 人工呼吸器使用
- 経鼻胃管挿入

以下の手技の適応を判断し、実施する

- 静脈穿刺（留置針含む）
- 動脈穿刺（留置針含む）
- CVPカテーテル挿入
- 超音波ガイド（動脈、静脈、神経）
- 末梢神経ブロック
- 腰椎穿刺
- 硬膜外穿刺

◆小児科　必須科目　２年目８週

〇目標

小児科診療に必要な基礎的知識、検査・手技、診察姿勢を習得するとともに、小児と成人との異なる点や小児特有の疾患を理解し、日常よくみられる小児疾患のプライマリーケアに対応できることを目標とする

〇指導医と研修施設

指導医　　岡本　恭明　他

研修施設　　川西市立総合医療センター

〇小児の発育・発達・生理的特徴の理解

〇医療面接

- 年齢に応じて患児およびその家族から病歴聴取が行える
- 年齢に応じて患児およびその家族に対して検査・診断・治療方針等について説明を行い、同意を得ながら診療を行う過程の経験

〇行動目標

以下の診察・基本的手技の実施または適応の決定ができる

- 基本的な理学的診察法の習得
- 静脈採血、静脈ルートの確保
- 輸液内容の選択と指示
- 輸血
- 酸素吸入、ネブライザー吸入
- 口腔、鼻腔吸引
- 血圧測定
- 浣腸
- 腰椎穿刺
- 胃洗浄
- 導尿
- 骨髄穿刺
- 腸重積非観血的整復法
- 心肺蘇生法

以下の検査を必要に応じて自らし、結果を解釈できる

- 血液ガス分析
- 血糖検査
- 尿一般検査
- 髄液一般検査
- 心電図記録

以下の検査を適切に選択・指示し、結果を解釈できる

- 血液、尿および髄液の一般生化学検査
- 一般的血清・免疫学的検査
- 内分泌検査
- 腫瘍マーカー検査
- アレルゲン検査
- 一般的微生物検査
- 単純X線検査
- 心電図検査

以下の検査を適切に選択・指示し、専門家の意見に基づき結果を解釈できる

- 心臓超音波検査
- 腹部超音波検査
- CT検査
- MRI検査
- 脳波検査
- 消化管造影検査

小児期の予防医療、虐待についての理解を深める

- 定期および任意の予防接種の理解
- 虐待の把握の対応の方法の理解

◆産婦人科　必須科目　２年目８週

〇目標

産科：

正常妊娠分娩産褥経過をよく理解し、異常の早期発見、早期対応ができるようにする

妊娠による母体変化の理解、特に母児の関係構築の支援、正常新生児の一般的診療などについての基本的診療についての研修を行う

婦人科：

婦人科良性疾患の診断治療を深める

〇指導医と研修施設

指導医　　藤井　光久　他

研修施設　　川西市立総合医療センター

【◆産科】

〇行動目標

以下の検査を必要に応じて自らし、結果を解釈できる

- 産科内診
- 腹部診察
- 経膣超音波検査
- 経腹超音波検査
- 膣外隠炎検査
- 膣分泌物顕鏡
- 破水検査

以下の検査を適切に選択・指示し、結果を解釈できる

- 妊娠検査
- 血液生化学検査
- NST検査
- 分娩監視装置

以下の検査を適切に選択・指示し、専門家の意見に基づき結果を解釈できる

- 頚管炎検査
- ハイリスク妊娠基本検査の理解

以下の治療法の適応を決定し、実施できる

- 正常妊娠管理
- 正常分娩管理
- 正常産褥管理
- 正常新生児管理

以下の治療法の必要性を判断し、適応を決定できる

- 切迫流産管理
- 頚管縫縮術介助
- 分娩時裂傷縫合介助
- 帝王切開術介助
- 異常妊娠分娩治療の理解

以下の手技の適応を決定し、実施できる

- 分娩時血管確保
- 会陰部局所麻酔
- 会陰保護
- 臍帯巻絡の解除
- 胎盤娩出
- 会陰切開縫合

【◆婦人科】

以下の検査を必要に応じて自らし、結果を解釈できる

- 婦人科内診
- 経膣超音波検査
- 経腹超音波検査
- 子宮頚部細胞診採取
- 膣分泌物顕鏡検査
- 膣内細菌培養検査
- 基礎体温
- 卵胞計測
- フーナーテスト

以下の検査を適切に選択・指示し、結果を解釈できる

- 性病検査
- 女性ホルモン検査
- 頚管粘液検査

以下の治療法の適応を決定し、実施できる

- 膣内洗浄
- 婦人科感染症治療
- 子宮脱手術介助
- 子宮附属器摘出術介助
- 子宮全摘術介助
- 腹腔鏡手術介助

以下の治療法の必要性を判断し、適応を決定できる

- 外陰膿瘍穿刺排膿
- ホルモン療法の基本
- 人工授精介助
- 子宮筋腫核出術介助
- 卵巣嚢腫核出術介助
- 婦人科悪性腫瘍治療に基本的理解

以下の手技の適応を決定し、実施できる

- 外科的基本手技
- 膣鏡操作

◆地域医療　必須科目　２年目８週

〇目的・特徴

地域医療研修の主たる目的は、最低1ヶ月のローテーションで、地域医療の基礎とその実践の現場を経験し、臨床医として必須の基本的な社会医学面の知識・常識を修得することにある。

また、訪問看護及び在宅医療等の現場での経験も組み入れ、病院での医療にとどまらない真のプライマリケアを理解し、広い視野をもって診療にあたる臨床医の育成をめざす。

〇指導医と研修施設

実施責任者　久保　雅弘（院長）
指導医　　久保　雅弘
研修施設　　さくらホームケアクリニック

〇一般目標

- 医療の持つ社会的側面の重要性を理解し、社会に貢献する
- 患者を全人的に理解し、患者・家族と良好な人間関係を確立する
- 医療チームの構成員としての役割を理解し、保健・医療・福祉の幅広い職種からなる他のメンバーと協調する
- 患者の問題を把握し、問題対応型の思考を行い、生涯に渡る自己学習の習慣を身につける
- 患者・家族との信頼関係を構築し、診断・治療に必要な情報が得られるような医療面接を実施する
- チーム医療の実践と自己の臨床能力向上に不可欠な症例呈示の能力を高める

〇行動目標

- プライマリケアを理解し、実践する
- 患者、家族のニーズを身体・心理・社会的側面から把握できる
- 診療のアウトカムおよび患者の満足度が最大限となる医療を心掛ける
- 地域医療を担う医療機関の体制、機能を理解する
- 地域医療を担う医療機関の業務内容を説明できる
- かかりつけ医の役割を理解する
- 地域医療連携について説明できる
- 地域における在宅医療の現場を理解する
- 入院医療と在宅医療の連携について理解する
- 在宅医療と介護制度の連携について理解する
- 在宅医療の対象となる病態をあげることができる
- 在宅医療に用いられる医療内容を説明できる
- 在宅医療において利用できる福祉サービスをあげることができる
- 医療面接は、診療情報を集めるための最も有効な方法ということだけでなく、それ自体に治療効果も備わっていることを理解し実践できる
- 陽性所見だけでなく、関連する陰性所見を盛り込んだ適切な症例呈示ができる
- 保健医療制度を理解し適切に実行できる
- 終末期～在宅看取り現場の体験を通じて、命の尊厳と在宅医療の果たす役割を理解する

◆精神科　必須科目　２年目４週

〇特徴

本プログラムでは、外来における予診、陪席および診療、病棟における診療、症例検討会、身体科からの依頼による診療などを通して、臨床医として最低限必要な精神医学の基本的な態度、知識、技能を身につけることを優先している。診療対象となる主な精神症状は、不安、抑うつ、不眠、意識障害（せん妄を含む）、精神疾患としては症状性・器質性精神病、認知症疾患、アルコール依存、気分障害（うつ病、躁うつ病を含む）、総合失調症、不安障害、身体表現性障害、ストレス関連障害である。閉鎖病棟を有し主に急性期のさまざまな疾患が体験できる。一般精神医療の他に、精神科救急医療、身体科と連携したコンサルテーション・リエゾン精神医療も体験できる。

〇指導医と研修施設

実施責任者　平野　公通（卒後研修室室長）
指導医　　兵庫医科大学病院　精神科　担当医
研修施設　　兵庫医科大学病院

〇一般目標

・ 精神保健や医療を必要とする患者とその家族に対して全人的に対応するために、身体科においても診療する機会の多い精神疾患や病態を理解し、初期対応のための精神症状の診断と治療技術を学び、専門医による診察を適切な時期に依頼できる能力を習得する。

〇行動目標

・ 精神保健福祉法を理解し患者やその家族の人権に配慮した診察ができる
・ 基本的な精神医学的面接ができ、精神症状を把握し、重要症状を抽出することができる
・ 病歴、現症、補助検査を総合して精神疾患の診断ができる
・ インフォームドコンセントについて理解し、精神症状に対する初期症状としての薬物療法、患者やその家族への適切な指示、指導ができる
・ 身体科の日常診療で遭遇する機会の多い精神症状、状態像について理解する
・ 身体科に適切な時期に診察を依頼することができる
・ 総合的な治療計画へ参画し関係機関と連携をはかることができる

〇研修内容

外来研修

・ 初診患者の予診をとり、指導医による本診察に陪席する
・ 指導医、上級医の再診患者の診察に陪席する
・ 身体科からの診察依頼のあった患者に対する指導医、上級医の診察に陪席する
・ 指導医による精神科救急患者への対応と診察に陪席する

病棟研修

- 指導医と上級医の指導のもと診療に参加する
- 入院時、問題点を列挙初期計画と予後を想定した治療計画を診療録に記載する
- 月曜から金曜（第1.3週は同様含む）は毎日診察を行い診療録に記載すると共に、指導医、上級医の指導のもとに処置を行う
- 患者の入退院に際して、その症例のサマリーを作成し、症例検討会・医局会に提示して討議する
- 週１回、患者の治療経過サマリーを診療録に記載し、治療方針について指導医、上級医とともに検討する
- 指導医、上級医とともに退院後の治療計画について検討し診療録に記載する

研修講義、抄読会、教授回診、症例検討会、医局会

- 研修講義：指導医によるテーマ別の講義に参加する
- 教授回診：治療方針について教授とともに検討する
- 症例検討会・医局会：入退院患者の症例掲示と診断、治療方針について検討する

教育に関する行事

- 研修講義：カンファレンス室にて月曜日から金曜日の午後
- 教授回診：病棟にて毎週水曜日午後
- 症例検討会・医局会：カンファレンス室にて毎週水曜日午後

※うつ病、統合失調症については、レポートを提出のこと

◆内科　選択科目　２年目

〇目標

　基礎研修で習得した項目についてさらに経験を深めるとともに、基礎研修で経験できなかった項目及び習得不十分な項目について研修する

〇指導医と研修施設

指導医　　厨子　慎一郎　他

研修施設　　川西市立総合医療センター

【◆消化器／肝臓】

〇行動目標

以下の検査を必要に応じて自らし、結果を解釈できる

- 上部消化管内視鏡検査
- 腹部超音波検査

以下の検査を適切に選択・指示し、結果を解釈できる

- 検便
- 血算
- 血液生化学的検査
- 血液免疫学的検査
- 出血凝固検査
- 肝機能検査
- 腫瘍マーカー
- 細菌学検査
- 薬剤感受性検査
- 腹部単純X線検査
- ウイルス学的検査
- 下部消化管内視鏡検査
- 上部消化管内視鏡検査
- 内視鏡下生検
- 細胞診・病理組織検査

以下の検査を適切に選択・指示し、専門家の意見に基づき結果を解釈できる

- 超音波ガイド下穿刺・生検
- 下部消化管造影検査
- 腹部CT検査
- 腹部MRI検査
- 逆行性膵胆管造影検査
- 経皮経胆管的胆道造影検査

以下の治療法の適応を決定し、実施できる

- 一般薬の適応と使用
- 消化器用薬剤の使用
- 抗潰瘍薬剤の使用
- 抗生物質の適応と使用
- ステロイド剤の適応と使用
- 輸液の適応と使用
- 輸液・血液製剤の適応と使用
- 中心静脈栄養法
- 呼吸管理
- 循環管理
- 食事療法
- 療養指導

以下の治療法の必要性を判断し、適応を決定できる

- 外科的治療法
- 放射線的治療法
- 精神的、心身医学的治療
- 消化管出血に対する止血術
- 食道静脈瘤に対する治療
- ポリープ・早期癌に対する治療
- イレウス管挿入と管理
- 経内視鏡的胆道ドレナージ術（ステント留置術を含む）
- 経皮経肝的胆道ドレナージ術（ステント留置術を含む）
- 抗腫瘍化学療法
- 経腸栄養法
- 在宅療法
- 経皮的エタノール注入療法
- リザーバ留置術
- 血管造影、塞栓術
- インターフェロン治療
- GI療法
- 血漿交換

以下の手技の適応を決定し、実施できる

- 注射法
- 採血法
- 胃管の挿入と管理
- ドレーン・チューブ類の管理
- 中心静脈穿刺
- 導尿

・ 胸腹水の穿刺、採取

以下の救急処置法を緊急を要する疾患または外傷を持つ患者さんに対して適切に処置し、必要に応じて専門家に診察を依頼することができる

・ 急性腹症
・ 吐血・下血

【◆循環器】

〇行動目標

循環器疾患の基本的な理解と検査・治療を身につける。

以下の検査を必要に応じて自らし、結果を解釈できる

・ 血算
・ トロポニンT迅速測定
・ 心電図

以下の検査を適切に選択・指示し、結果を解釈できる

・ 血液生化学的検査
・ 血液免疫学的検査
・ 肝機能検査
・ 腎機能検査
・ 肺機能検査
・ 血液凝固検査
・ 心臓超音波検査・ドップラ
・ 運動負荷心電図
・ 胸部単純X線検査

以下の検査を適切に選択・指示し、専門家の意見に基づき結果を解釈できる

・ MRI検査
・ CT検査

以下の治療法の適応を決定し、実施できる

・ 一般薬の適応と使用
・ 強心薬の使用
・ 利尿剤の使用
・ 抗不整脈薬の使用
・ 降圧剤の使用
・ 血管拡張薬の使用
・ 冠血管拡張薬の使用

・ 輸液の適応と使用
・ 呼吸管理
・ 循環管理（不整脈含む）
・ 血栓溶解療法
・ 食事療法
・ 療養指導

以下の治療法の必要性を判断し、適応を決定できる
・ 体外的ペーシング
・ ペースメーカ植込術
・ 電気的除細動
・ 医学的リハビリテーション

以下の手技の適応を決定し、実施できる
・ 抹消動脈穿刺
・ 中心静脈カテーテル挿入
・ 導尿

【◆糖尿病・代謝・内分泌】

〇行動目標
以下の検査を必要に応じて自らし、結果を解釈できる
・ ７５ｇ糖負荷試験
・ 血糖日内変動
・ 内分泌学的検査及び負荷テスト（グルカゴン、インスリン負荷テスト等）
・ 眼底検査

以下の検査を適切に選択・指示し、結果を解釈できる
・ 腹部CT検査
・ 腹部超音波検査
・ 頸動脈超音波検査
・ ABI（anckle brachial index）
・ 甲状腺超音波検査

以下の検査を適切に選択・指示し、専門家の意見に基づき結果を解釈できる
・ 甲状腺エコー検査

以下の治療法の適応を決定し、実施できる
・ 食事療法の適応と指導
・ 運動療法に適応と指導

- 経口糖尿病薬の適応と使用
- インスリン療法の適応と使用
- 甲状腺の薬物療法
- 糖尿病患者の術前・術後管理
- 低血糖、シックデイの対応

【◆呼吸器】

〇行動目標

以下の検査を必要に応じて自らし、結果を解釈できる

- 喀痰検査
- 血液ガス分析
- 呼吸機能検査
- 胸腔穿刺・胸水採取
- ツベルクリン反応

以下の検査を適切に選択・指示し、結果を解釈できる

- 胸部単純X線検査
- 胸部CT検査
- 細菌学的検査
- 薬剤感受性検査
- 腫瘍マーカー
- 細胞診・病理組織検査

以下の検査を選択・指示し、専門家の意見に基づき結果を解釈できる

- 胸部MRI検査

以下の治療法の適応を決定し、実施できる

- 一般薬の適応と使用
- 抗生物質の適応と使用
- 気管支拡張薬の適応と使用
- ステロイド薬の適応と使用
- 輸液の適応と使用
- 酸素療法・在宅酸素療法
- 慢性閉塞性肺疾患の在宅治療の指導
- 食事療法
- 療養指導

以下の治療法の必要性を判断し、適応を決定できる

- 外科的療法
- 放射線療法
- 理学療法
- 抗腫瘍化学療法の適応と使用
- 中心静脈栄養法
- 呼吸管理
- 循環管理

以下の手技の適応を決定し、実施できる

- 胸腔ドレナージ
- 胸膜癒着術
- 中心静脈穿刺

以下の手技の必要性を判断し、適応を決定できる

- 気管切開
- 胸膜癒着術

【◆神経内科】

〇行動目標

以下の検査を必要に応じて自らし、結果を解釈できる

- 髄液検査

以下の検査を適切に選択・指示し、結果を解釈できる

- 脳CT

以下の検査を適切に選択・指示し、専門家の意見に基づき結果を解釈できる

- 脳波
- 神経伝導速度
- 筋電図
- 脳MRI

以下の治療法の適応を決定し、実施できる

- 抗生剤の適応と指導

以下の治療法の必要性を判断し、適応を決定できる

- ステロイド剤の適応と使用
- ガンマグロブリンの適応と使用

以下の手技の適応を決定し、実施できる

- 腰椎穿刺

【◆腎臓】

〇行動目標

以下の検査を必要に応じて自らし、結果を解釈できる

- 検尿・尿沈渣

以下の検査を適切に選択・指示し、結果を解釈できる

- 血液科学的検査
- 血液免疫学的検査
- 腎機能検査

以下の検査を適切に選択・指示し、専門家の意見に基づき結果を解釈できる

- 腎生検

以下の治療法の適応を決定し、実施できる

- 食事療法
- 薬物療法

以下の治療法の必要性を判断し、適応を決定できる

- 透析療法
- 腎移植

【◆血液／膠原病】

〇行動目標

以下の検査を必要に応じて自らし、結果を解釈できる

- 出血時間測定
- 血液型判定・交差試験

以下の検査を適切に選択・指示し、結果を解釈できる

- 染色体検査
- 血液免疫学的検査

以下の治療法の適応を決定し、実施できる

- 輸血血液製剤の使用

以下の治療法の必要性を判断し、適応を決定できる

- 化学療法
- GCSF療法

以下の手技の適応を決定し、実施できる

- 骨髄穿刺
- 骨髄生検

◆外科　選択科目　２年目

〇目標

手術の適応の決定と手術の基本的手技を取得する

〇指導医と研修施設

指導医　　杉本　圭司　他

研修施設　　川西市立総合医療センター

〇行動目標

以下の検査を必要に応じて自らし、結果を解釈できる

- 超音波検査
- 造影Ｘ線検査

以下の検査を適切に選択・指示し、結果を解釈できる

- 血液生化学的検査
- 血液免疫学的検査
- 肝機能検査
- 腎機能検査
- 肺機能検査
- 内分泌検査
- 細菌学検査
- 薬剤感受性検査
- 単純X線検査
- CT検査
- MRI検査
- RI検査
- 細胞診・病理組織検査
- 内視鏡検査

以下の治療法の適応を決定し、実施できる

- 一般薬の適応と使用
- 抗生物質の適応と使用
- 鎮痛剤の適応と使用
- ステロイド薬の適応と使用
- 輸液の適応と使用
- 輸血・血液製剤の適応と使用
- 中心静脈栄養法
- 経腸栄養法
- 呼吸管理
- 循環管理
- 食事療法

- 療法指導

以下の治療法の必要性を判断し、適応を決定できる
- 放射線的治療
- 抗腫瘍化学療法
- 医学的リハビリテーション

以下の手技の適応を決定し、実施できる
- 無菌操作
- 皮膚縫合
- 糸結び
- 糸切り
- 止血
- 抜糸
- 胸腔・腹腔穿刺、ドレナージ
- 中心静脈栄養カテーテル挿入
- カットダウン

以下の手技の必要性を判断し、適応を決定できる
- 中心静脈栄養カテーテル挿入
- カットダウン

以下の手術の適応を判断し、術者として実施できる
- 外来小手術
- 単開腹・閉腹
- 虫垂切除術
- 鼠経ヘルニア手術
- 痔核手術
- 乳腺手術
- 胆嚢摘出術（腹腔鏡）
- 人工肛門造設術
- 胃腸吻合術

以下の手術の適応を判断し、手術に参加できる
- 甲状腺手術
- 肺切除術
- 食道切除術
- 胃切除術
- 大腸切除術
- 直腸切除術
- 胆嚢摘出術（開腹）
- 肝切除術
- 膵頭十二指腸切除術

◆外科疾患と術前、術中、術後管理　２年目

〇目標

基本研修にて取得した麻酔技術をもとにした麻酔管理を学ぶ
術後疼痛管理（硬膜外、静脈内持続注入）
術後管理

〇指導医と研修施設

指導医　　杉本　圭司　他
研修施設　　川西市立総合医療センター

〇行動目標

以下の検査を必要に応じて自らし、結果を解釈できる

- 血算
- 電解質検査
- 動脈血ガス分析
- 血液型判定
- 術中呼吸・循環動態の把握
- 各種術前検査

以下の検査を適切に選択・指示し、結果を解釈できる

- 血液生化学的検査
- 肝機能検査
- 腎機能検査
- 肺機能検査
- 出血凝固検査
- 細菌学的検査
- 薬学感受性検査
- 単純Ｘ線検査
- 超音波検査

以下の検査を適切に選択・指示し、専門家の意見に基づき結果を解釈できる

- CT検査
- MRI検査
- 重症患者さんの栄養状態の把握
- 重症患者さんの呼吸・循環動態の把握
- 重症患者さんの代謝状態の把握

以下の治療法の適応を決定し、実施できる

- 麻酔法の選択
- 麻酔前投薬の適応と使用
- 吸入麻酔薬の適応と使用
- 筋弛緩薬及び関連薬剤の適応と使用
- 周術期輸液の適応と使用
- 脊椎麻酔薬の適応と使用
- 硬膜外麻酔薬の適応と使用
- 術中輸血・血液製剤の適応と使用
- 術中呼吸管理
- 術中循環管理
- 術中体温管理

以下の治療法の必要性を判断し、適応を決定できる

- 中心静脈栄養法
- 呼吸管理
- 循環管理
- 疼痛管理

以下の手技の適応を決定し、実施できる

- 静脈路確保
- 用手的気道確保（下顎挙上）
- 用手的気道確保（上顎挙上）
- 用手的気道確保（頭部後屈）
- エアウェイ挿入（経口）
- エアウェイ挿入（経鼻）
- アンビューバックの使用
- 気管挿管（経口）
- 気管挿管（経鼻）
- くも膜下腔穿刺
- 硬膜架空穿刺、硬膜外カテーテル留置
- 動脈穿刺、動脈内カテーテル留置
- 経鼻胃管挿入
- 導尿、尿カテーテル留置
- 気管内吸引

以下の手技の必要性を判断し、適応を決定できる

- 中心静脈カテーテル挿入
- 分離肺換気手技
- 気管支ファイバーによる喀痰吸引

◆救急診療　選択科目　２年目

〇目標

救急患者さんの特殊性を理解し、的確な診療ができる知識と技術を見つける

〇指導医と研修施設

指導医　　大家　宗彦　他

研修施設　　川西市立総合医療センター

〇行動目標

以下の検査を必要に応じて自ら検査し、結果を解釈できる

- 血液検査
- 検尿・検便

以下の検査を適切に選択・指示し、結果を解釈できる

- レントゲン検査
- CT検査
- 腹部エコー
- 心エコー

以下の治療法の適応を決定し、実施できる

- 下顎保持
- エアウェイ挿入
- 気管挿管
- 気道吸引
- アンビューバックの使用
- 人工呼吸器使用
- 胸骨叩打
- 胸骨圧迫マッサージ
- 直流鋤細動
- 圧迫止血法
- 止血帯の使用
- 経鼻胃管挿入
- 胃洗浄
- 導尿法
- 尿カテーテル留置
- 穿刺
- 浣腸
- ドレーン・チューブ類の管理
- 局所麻酔法
- 軽度の外傷の処理
- 簡単な切開・排膿

- 皮膚縫合法
- ガーゼ・包帯交換
- 包帯法
- 滅菌消毒法
- 応急副子固定（骨折について緊急性の有無の判断）
- 鼻出血の止血処置
- 簡単な結膜・角膜異物除去
- 耳異物除去
- 鼻異物除去
- 熱傷の局所療法
- 胸腔ドレナージ挿入
- 鎖骨下静脈穿刺
- CVPカテーテル挿入
- 腰椎穿刺
- 胸腔穿刺
- 腹腔穿刺

◆小児科　選択科目　２年目

〇目標

小児科必須研修終了後、専門的な小児科研修を目指す。指導医のもとで主治医として研修を行うことにより、新生児を含む小児疾患への理解を深め、医療面接技術、診療手技の上達を図り、診断の確定、治療方針の決定と実施ができることを目指す。さらに患児、家族に対して年齢に応じて説明を行い同意を得ながら診療を行う姿勢を身につける。入院診療については、二次救急医療機関としての役割の理解と診療を習得する。

〇指導医と研修施設

指導医　　岡本　恭明　他

研修施設　　川西市立総合医療センター

〇小児の急性・慢性疾患への理解を深め、可能な限り様々な疾患を経験する

- 一般的感染症（呼吸器・消化器・尿路等）の診療
- 痙攣性疾患（熱性痙攣等）の診療
- 気管支喘息等、喘鳴を伴う疾患の診療
- 川崎病の診療

〇病的新生児・低出生体重児の診療

〇新生児健診・1か月健診への参画

〇心臓・腹部超音波検査への理解を深める

〇CT・MRI等の画像診断への理解を深める

〇乳幼児のMRI検査等における鎮静法の習得

〇小児を対象とする医療費の公的負担制度の理解

◆産婦人科　選択科目　２年目

〇目標

　基礎研修で習得した項目についてさらに経験を深めるとともに、基礎研修で経験できなかった項目及び習得不十分な項目について研修する

〇指導医と研修施設

指導医　　藤井　光久　他

研修施設　　川西市立総合医療センター

【◆産科】

〇行動目標

以下の検査を必要に応じて自らし、結果を解釈できる

- 産科内診
- 腹部診察
- 経膣超音波検査
- 経腹超音波検査
- 膣外隠炎検査
- 膣分泌物顕鏡
- 破水検査

以下の検査を適切に選択・指示し、結果を解釈できる

- 妊娠検査
- 血液生化学検査
- NST検査
- 分娩監視装置

以下の検査を適切に選択・指示し、専門家の意見に基づき結果を解釈できる

- 頚管炎検査
- ハイリスク妊娠基本検査の理解

以下の治療法の適応を決定し、実施できる

- 正常妊娠管理
- 正常分娩管理
- 正常産褥管理
- 正常新生児管理

以下の治療法の必要性を判断し、適応を決定できる

- 切迫流産管理
- 頚管縫縮術介助
- 分娩時裂傷縫合介助
- 帝王切開術介助

・ 異常妊娠分娩治療の理解

以下の手技の適応を決定し、実施できる

・ 分娩時血管確保
・ 会陰部局所麻酔
・ 会陰保護
・ 臍帯巻絡の解除
・ 胎盤娩出
・ 会陰切開縫合

【◆婦人科】

以下の検査を必要に応じて自らし、結果を解釈できる

・ 婦人科内診
・ 経膣超音波検査
・ 経腹超音波検査
・ 子宮頚部細胞診採取
・ 膣分泌物顕鏡検査
・ 膣内細菌培養検査
・ 基礎体温
・ 卵胞計測
・ フーナーテスト

以下の検査を適切に選択・指示し、結果を解釈できる

・ 性病検査
・ 女性ホルモン検査
・ 頚管粘液検査

以下の治療法の適応を決定し、実施できる

・ 膣内洗浄
・ 婦人科感染症治療
・ 子宮脱手術介助
・ 子宮附属器摘出術介助
・ 子宮全摘術介助
・ 腹腔鏡手術介助

以下の治療法の必要性を判断し、適応を決定できる

・ 外陰膿瘍穿刺排膿
・ ホルモン療法の基本
・ 人工授精介助
・ 子宮筋腫核出術介助
・ 卵巣嚢腫核出術介助
・ 婦人科悪性腫瘍治療に基本的理解

以下の手技の適応を決定し、実施できる

- 外科的基本手技
- 膣鏡操作

◆緩和医療　選択科目　２年目

〇目標

がん患者が抱える様々な症状を緩和するために、病態を理解し患者家族に配慮した診療を行う能力を身につける

〇指導医と研修施設

指導医　　緩和ケア担当医

研修施設　　医療法人協和会第二協立病院・医療法人協和会協立温泉病院

〇行動目標

- がん患者の痛みの評価ができる
- がん疼痛治療薬を列挙できる
- オピオイドを選択して使用できる
- 嘔気嘔吐、便秘などの対処法を説明できる
- 呼吸困難の対処法を説明できる
- せん妄を識別できる
- 終末期と判断できる
- 終末期の治療計画を立案できる
- 患者家族に寄り添える
- 死亡確認ができる
- 死亡診断書が作成できる
- 症状緩和の処置ができる
- 緩和ケア講習会に参加する
- 輸液・栄養管理ができる
- 在宅ホスピスと連携する方法が挙げられる

◆泌尿器科　選択科目　２年目

〇目標

・ 泌尿器疾患の患者の診療を通じて、泌尿器科疾患の基本的知識、泌尿器診療の基本的技能を習得する。
・ 外来診療の補助。入院患者の主治医。手術の補助。内視鏡検査等の泌尿器科診療に必要な検査の習得。患者に対して外来診療から入院、手術、退院後の診察まで一貫した診療を行う。
・ 侵襲的手技は指導医の指導の下で行う。

〇指導医と研修施設

指導医　　梶川　次郎　・　東郷　容和
研修施設　　川西市立総合医療センター

〇医療面接、身体診察法、基本的検査

・ 適切な情報収集ができる。
・ 主訴、病歴聴取、身体診察などから、疑われるべき泌尿器科疾患をあげられる。
・ 泌尿器科的な、理学的所見、神経学的所見をとることができる。
・ 泌尿器科的に必要な検査項目が判断でき、その優先順位がつけられる。
・ 一般的な血液検査などを適切にオーダー、解釈できる。
・ 適切なレントゲン検査をオーダーできる。
・ 単純レントゲン、腎盂造影、ＣＴ、ＭＲＩが読影できる。
・ 尿路、性器の超音波検査ができる。
・ 直腸診で前立腺の診察ができる。
・ 腎盂造影、等尿路のレントゲン検査ができる。
・ 膀胱尿道内視鏡検査ができる。
・ 導尿が出来る。
・ 尿道バルーンの留置、交換、洗浄ができる。
・ 腎瘻バルーンの交換、洗浄ができる。
・ 緊急治療を必要とする症状・病態かどうかを判断できる。

〇基本的治療法

・ 医療面接、身体診察法、基本的検査にもとづいて適切な治療方針の立案が出来る。
・ ガイドラインのもとづく治療選択ができる。
・ 泌尿器科疾患の治療方針について説明し、インフォームドコンセントを得られる。
・ 泌尿器疾患の手術適応が、判断できる。
・ 手術準備の基本的手技
(手洗い、清潔不潔領域の区別、覆布がけ、局所麻酔、脊椎麻酔など)が実施できる。
・ 小手術の基本的手技
(注射法、局所麻酔、洗浄、切開排膿、皮膚縫合、軽度の外傷の処置)が実施できる。
・ 指導の下に手術（手術術式による）の助手ができる。
・ 体外衝撃波腎・尿管結石破砕術ができる。
・ 感染症に対する適切な治療薬の選択ができる。

・ 癌に対する集学的治療の立案ができる。
・ 癌に対する緩和治療ができる。

〇診療録記録等

・ 毎日のカルテ記載ができる。
・ 紹介状・紹介状への返信を適切に作成できる。
・ 退院サマリーを期限内に記載できる。
・ 文書(承諾書、紹介状に対する返事など)を正しく作成できる。
・ 指導医および他科医師、その他の医療従事者と適切なコミュニケーションがとれる。
・ 毎日、朝と夕、指導医と患者についてディスカッションする。
・ 研修終了時に自己評価・指導医からの評価を行う。

研修内容は、基本的に研修期間には関連しませんが、研修期間が長ければ、経験例が増え、より充実した研修になります。

◆耳鼻咽喉科　選択科目　２年目

〇目標と特徴

・ 耳鼻咽喉科・頭頸部領域の局所解剖・生理についての知識を得る。耳・鼻・咽喉頭の症候や病態を適切に評価したうえで、適切な診断・治療できる基本的な能力を身につける。
・ 耳鼻咽喉科は耳・鼻副鼻腔・頭頸部と領域が細分化されているが、各専門領域の医師に応援に来てもらうことで、より専門性の高い研修を行うことができる。

〇指導医と研修施設

指導医　　橋本　健吾　他
研修施設　　川西市立総合医療センター

〇研修目標

一般目標

外来診療、病棟業務、手術やカンファレンスを通して、耳鼻咽喉科の基本的な医療面接、検査、診察、治療、外科的手技を習得する。

行動目標

1 適切な病歴聴取ができる。
2 耳・鼻・口腔・咽頭・喉頭の診察および所見の記載ができる。
3 検査（聴力・嗅覚・平衡機能など）の目的、内容を理解し、正しく評価することができる。
4 基本的な耳鼻咽喉科疾患の診断ができる。
5 ファイバースコープを用いて鼻腔、咽喉頭の所見を取り、結果を評価できる。
6 耳鼻咽喉科領域の代表的疾患について、単純レントゲン・CT・MRIなどの画像評価ができる。
7 指導医のもと、鼻出血止血、鼓膜切開、扁桃周囲膿瘍切開排膿、気管切開などの耳鼻咽喉科の基本的な外科的処置が実施できる。
8 手術に参加し、頭頸部領域の解剖に理解を深めるとともに、術後全身管理を行うことができる。
9 耳鼻咽喉科領域の救急疾患（めまい・鼻出血・中耳炎・扁桃周囲膿瘍・急性喉頭蓋炎・簡単な異物除去・外傷など）の評価および初期対応ができる。
10 頭頸部領域の疾患において専門医への適切なコンサルテーションができる。

〇週間スケジュール

	午前	午後
月曜	外来	検査・小手術
火曜	外来・手術	手術
水曜	外来	
木曜	外来	手術・補聴器外来
金曜	外来	検査・小手術

◆地域保健　選択科目　２年目４週

〇指導医と研修施設

【保健所】

実施責任者　清水　光恵（伊丹健康福祉事務所所長）

実施責任者　野原　秀晃（宝塚健康福祉事務所所長）

指導医　　各施設　研修担当者

研修施設　　伊丹健康福祉事務所、宝塚健康福祉事務所

【保健センター】

実施責任者　坂上　利治（川西市保健センター所長）

指導医　　施設　研修担当者

研修施設　　川西市保健センター

〇目標

【保健所】

- 保健所の役割の理解
- 病院・薬局・介護保険施設などへの監視、指導
- 難病・未熟児・障害者対策
- 人口動態統計および各種厚生統計調査
- 健康相談、健康診断などの活動
- 感染症（結核やエイズなど）予防、対策
- 精神保健福祉活動
- 食品衛生・水道対策
- 環境保健（レジネオラ、シックハウス症候群など）
- 歯科保健対策・訪問歯科事業
- 生活習慣病予防
- 毒物・劇薬検出

【保健センター】

- 保健センターの役割の理解
- 老人保健法の規定による医療等以外の保健事業の理解
- 母子保健の推進
- 各種健（検）診活動
- 予防接種
- 献血推進

◆兵庫医科大学病院　選択科目　２年目８週

〇指導医と研修施設

実施責任者　平野　公通（卒後研修室室長）

指導医　　各診療科指導医

研修施設　　兵庫医科大学病院

〇選択した各診療科の指導医・研修プログラムに準じて研修を行う。

◆大阪大学医学部附属病院　選択科目　２年目８週

〇指導医と研修施設

実施責任者　入澤　太郎（特任教授）

指導医　　入澤　太郎

研修施設　　大阪大学医学部附属病院　高度救命救急センター

〇高度救命救急センターの指導医・研修プログラムに準じて研修を行う。